

新型コロナ再拡大の影響で、 非製造業を中心に業況悪化

12月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

県は12月19日に新型コロナ警戒度を「4」に引き上げ、不要不急の外出自粛や一部地域の飲食店の営業時間短縮を要請、活気のみられない師走となった。さらに、Go To トラベルの全国一斉停止が重なり、非製造業を中心に業況が再び悪化。緊急事態宣言の再発令が検討されるなど、さらなる業況悪化を不安視している。

| | | | |
|------|---------|--|--|
| 製造業 | 食料品 | | パンは、人の動きが制限され客足が減り、クリスマス、年末の消費意欲が低下。製麺は、生麺・乾麺ともに前年並みに近づいても、業務用は低調のままで厳しい状況。酒造は、吟醸酒・純米酒が前年並みの売上。食肉は、家庭用需要に支えられ業況安定。菓子は、まとまった注文が入るようになり、前年並みに回復。 |
| | 繊維・同製品 | | 刺繍は、仕事量は戻りつつあるものの、資材コストの上昇により収益状況は悪化している。繊維製品は、既存のアパレルの仕事は悪い状態が続く中、新型コロナ感染拡大の影響で医療用ガウンの緊急対応的な追加発注があり、今後の動きを注目している。伊勢崎織物は、先行きの不透明感が拭えない状況。 |
| | 窯業・土石製品 | | 生コンは、出荷量が前年を上回ったのは西毛地域のみで、県央部・東毛地域は大型物件が少なく厳しい状況。砕石は、吾妻地域の災害復旧工事が順調に推移し、骨材、生コンなどの建設資材の需要が相変わらず多いため、労働力、運搬用ダンプの不足が発生。砂利は、原石費・輸送費が生産コストを押し上げている。 |
| | 機械・金属 | | 鍍金は、出勤日を増やし忙しくしている企業と雇用調整をする企業とで二極化している。電機は、企業が設備投資を控えている影響で既存設備のメンテナンス需要が増加。自動車関連は、前月に続き前年並みの水準を確保。半導体は、好調が継続しており、今後の生産増が期待される。 |
| | その他の製造業 | | 木材は、原木が少ない中、良質の製品は単価が前年並みに戻りつつある一方、質が劣る製品は単価が低迷し荷動きも悪くなっている。印刷は、前年並みに推移するも、今後の見通しが立たない状況。ゴム製品は、前月に続き回復傾向にあり、人員確保に苦慮する組合員も散見される。 |
| 非製造業 | 卸売業 | | 不要不急の外出自粛や一部地域を対象とした飲食店の時短営業要請による経済活動の停滞を懸念。農産物卸は、年末年始のGo To トラベル停止による観光地・旅館のキャンセルに伴い返品が発生するなど打撃を受けている。酒類卸は、飲食店などに対する時短営業要請の影響で取引先の酒店が不振となり、売上減少が続く。 |
| | 小売業 | | 家電小売は、空気清浄機、加湿器が需要旺盛だが、生産が追い付かず品不足が続く。中古車オークションは、例年並みの水準を維持するも、先行きを不安視。燃料小売は、需要は概ね回復したが、コロナの影響で今後は減少予測。生花小売は、鉢物などお歳暮需要が減少。商店街は、自粛ムードが広がる中、年末商戦は苦戦。 |
| | サービス業 | | 温泉旅館は、Go To トラベルの全国一斉停止や大雪予報が影響し年末年始のキャンセルが続出、今後、緊急事態宣言発出が業況悪化に拍車を掛けることを懸念。不動産取引は、新型コロナ感染拡大により取引が減少傾向。建築設計は、発注者との打ち合わせなどの手段として、テレビ会議システムの導入を急ぐ。 |
| | 建設業 | | 解体工事は、年末駆け込みの依頼が増加。鉄構は、受注単価低下と材料費上昇により加工費が圧迫され厳しい状況。塗装工事は、年末の駆け込みが減少し、工期に余裕が生じる。電気工事は、コロナ対策などの支出が増加し、作業効率も悪化。建設工事は、コロナ対策経費を工事費に計上する制度の活用を今後推進していく。 |
| | 運輸業 | | 全体的に年末の繁忙感が感じられず低調に推移。ただ、一部において年末特有の荷動きもみられ車両不足の状況も発生。燃料価格は下げ止まり、上昇に転じている。野菜関連は、例年に比べて生育が良く輸送量増加。小口配送は、引越、医薬品P E Tは例年並みだが、スポット配送に慌ただしさが無い異例の年末となった。 |

※本調査は、情報連絡員55人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

●鉱工業生産指数(季節調整値) 94.2(前月比▲1.8%)「県統計課・11月」
●求人倍率(季節調整値) 新規1.87倍・有効1.14倍「群馬労働局・11月」

●大型小売店販売額 272億円(前年同月比+5.1%)「経済産業省・11月」
●消費者物価指数(全国) 101.3(前年同月比▲0.9%)「総務省統計局・11月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)